

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」


事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 千葉県 】

1 実践テーマ	【 I III V 】
2 実施対象者	一宮町立一宮中学校 1・2・3年 12クラス 331人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ①教科名 () ②行事名 (車いすテニス体験教室、サーフィン講演会) ③その他 () (2) 地域における活動 ①イベント名 () ②その他 ()
4 目標 (ねらい)	○次世代を担う子供たちに国際感覚やスポーツの楽しさ、ボランティア精神、障害者への理解を身につけさせる。 ○共生社会の形成を目指し、他者を理解しようとする気持ちを育て、スポーツの楽しさや感動を分かち合う気持ちを育てる。
5 取組内容	<p>①車いすテニス体験教室では、2017年車いすテニスシングルスアジアチャンピオンの鈴木康平選手を講師として招聘し開催した。本校ソフトテニス部生徒に実際に車いすの操作方法から指導していただき、最終的には相手に打ち返す事ができるようになった。</p> <p>②サーフィン講演会では本校卒業生の大原洋人選手、日本サーフィン連盟千葉東部長大海英一氏を講師に迎え開催した。一宮海岸での練習風景を冒頭に見せ、地域愛を育む事も意識した。大原選手から、サーフィンを始めた頃は競技力が低く、周囲からも軽視されていたが、努力を重ね、世界へ挑戦していくうちに世界中に友人ができたことが一番嬉しかったとの話があった。また、在校生に対して、自分がやりたいと思うことを追求して欲しい。人生は変わる！といったエールも送られた。</p>



	<p>③オリンピック・パラリンピック教育プログラムから横断幕の制作に取り組んだ。</p> <p>全校生徒からアイデアを募集し、本校美術部員が審査をし基本となるデザインを決定し、修正加筆を加え横断幕が完成した。</p>  <p>サーフィン講演会の場でお披露目をし、「一宮の海を世界へ!」というスローガンのもと、2020年、一人ひとりの生徒が町民として貢献する気運を高めた。</p>
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒たちの中に障害を持った時の気持ち、それからの心の移り変わりを実体験で話してもらうことにより、生徒の気持ちに迫ることができた。 ○車いすテニスでは障害者も健常者も一緒にプレーできる競技であるという認識ができ、より身近な感覚を持つことができた。 ○パラリンピック・車いすテニス日本代表候補からテニスを直接指導・講話してもらうことにより、2020年東京パラリンピックを応援しようとする気持ちを育てることができた。 ○母校卒業生が世界を目指し、努力している姿に多くの生徒が感銘を受け、自分を見つめ直す機会となった。 ○サーフィンを日々練習している生徒を友人の前で紹介することにより、共感的な態度や応援する気持ちを育てることができた。 ○世界で活躍するためには語学力の取得や世界の歴史や文化・習慣などの理解が必要であり、中学校で学ぶべき事がたくさんあるという講師の言葉に生徒たちは努力することの意義を見いだした。
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○パラリンピックでは障害者に対する偏見が予想されたので、講師との打ち合わせ時から、生徒の心情に迫る講話内容をリクエストした。 ○プロが編集した映像を生徒に見せてから講演会が始まるように設定した。それぞれのアスリートの競技力の高さ、社会的認知度を理解させた上で、講義に参加させることを心がけた。 ○オリンピック・パラリンピック教育のための掲示コーナーを特設し、生徒の意欲関心高めることに努めた。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本校室内体育館が比較的小規模なため、体験的な活動に対しては活動範囲、見学場所など多くの問題があり苦労した。また、トイレや更衣室などの施設もなく、ユニバーサルデザイン化されていない現実を知ることとなった。 ○多くの学校行事を抱える中、新たな時間確保が厳しかった。また、講師との日程調整や連絡等に時間が必要であった。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ホストタウンとして、具体的に何をしなければならないかを考えていかなければならない。2002サッカーワールドカップでおもてなしの事業を行った自治体の話などを参考に、町民一人ひとりが具体的に何をすべきか生徒に考えさせる1年としたいと思う。 ○本町は「サーフィン競技開催地」であり、学校・社会体育・社会福祉・地元企業・商工会等が一体となった事業が展開されるべきだと考える。一宮町オリンピック推進課のグランドデザインをもとに学校教育の中でできることを追求してきたい。